



年頭にあたって

代表理事組合長 高橋 光秀

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様をはじめご家族の皆様には輝かしい新年を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。

昨年の営農を振り返りますと、小麦では根雪が少なかったため、一部根が切れて枯れる等の被害があり、また春先の干ばつの影響を大きく受け収量が減少しました。しかしながら他作物では春先の低温で生育が一時心配されたものの、その後の好天に恵まれ、各作物に於いて良好な作況となりました。一方価格面ではビートの基準糖分が引下げられた事と糖分が数年ぶりに16%台に達したこともあり、ビートでは農家手取りが増えたものの、馬鈴薯や豆類の価格は低迷したままで推移しました。また酪農、畜産に於いては濃厚飼料の高騰で生産コスト高の経営を強いられました。肉牛・素牛の高値もあり、この1年間の営農は総じて皆様の努力が報われた年であったかと思われまます。農協事業に於いては組合員の結集により、取扱高も多くなりましたが、小麦の減収が大きく影響し、12月での仮決算では、事業計画を下回る状況となっています。今後2月の決算期に向け鋭意努力して参る所存であります。

国内経済はアベノミクスによる経済政策がデフレ脱却・株高円安に振れ、一部大企業では回復基調にあるものの、4月からの消費税増税の影響もあって消費が伸びず、7-9月期のGDP速報値もマイナスになるなど中小企業や特に地方に於いては、回復の兆しが見えない状況となっています。11月には平成27年10月に10%への引上げを予定していた消費税増税は延期を表明、これを争点として衆議院が解散され、12月には衆議院議員選挙が実施されるなど慌ただしい年の瀬となりました。

農業を取巻く情勢は、TPP交渉に関して関係国の首脳・閣僚・交渉官等による会合・交渉が断続的に行われており、今後とも余談を許さない情勢にあります。一方で政府は規制改革会議における答申を踏まえ、農協系統組織に自己改革を求めたため、JAグループ北海道としては組合員を始めとする組織討議を実施し「JAグループ北海道改革プラン」を策定いたしました。今後この改革プランの内容を踏まえながら事業展開を進めて行く必要があると思われまます。

今、農業は変革期を迎え、近年益々不透明さを増していますが、次世代へ継承していくためにも長期的な視点に立ち、組合員の皆様が希望を持って営農に専念出来る環境作りに努めていかなければならないと考えています。今後とも地域に根差した協同組合として、組合

員を始め地域の人々と共に歩み、「信頼・利用・満足されるJA」の経営理念を基に、役職員一丸となって運営に取り組んで参りますので、本年も何卒ご協力賜ります様お願い申し上げます。

最後に平成27年が天候に恵まれ、皆様方と共に豊穡の秋を迎えられますよう併せて組合員・ご家族の皆様の御健勝を祈念いたしまして新年の御挨拶といたします。



新年を迎えて

札内農業協同組合 代表監事

組合員の皆様、新年明けましておめでとうございます。御家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのことと思います。

平成26年を振り返りますと、4月下旬の霜害によりビートの苗に被害が出ました。それ以降、播種作業は順調に進みました。しかし、6月中旬の天候不順により管理作業に支障をきたしました。作物別に見ますと小麦に於いては、春先の干ばつの影響で、例年より早い収穫となり収量も前年を下回りました。しかし、品質は前年よりも良い成績でした。馬鈴薯に於いては、品質、収量とも例年よりも良く豊作でしたが、価格は前年に比べて下落傾向となっています。今後の有利販売に期待しています。豆類に於いては干ばつや長雨の影響を、大きく受けず平年より早く生育し、収穫前の台風や、長雨に悩まされることもなく順調に収穫が進みました。品質、収量はまずまずだったものの、小豆は近年豊作が続いた影響で価格が下落傾向となりました。ビートは前年まで4年間低糖分でしたが、久しぶりに16%台を確保する見通しです。収量的にも平年を上回る良好な成績です。酪農、畜産に於いて大口酪農家の農協離脱があり生乳は計画を達成することができなくなりました。また、輸入飼料、コストの高騰による経営環境の悪化が大きいです。家畜消流も環境は同じですが価格が高めに推移しています。

農業情勢は農業者の高齢化や担い手不足など農業の構造変化が続くなかで農地制度改革など農業政策は大転換期を迎えています。師走には衆議院選挙があり、その結果いかんではTPPなどに影響すると思います。一方では、日本とオーストラリア間の経済連携協定が4月に合意し、本年から段階的に牛肉の関税が引き下げられるなど、十勝農業への影響も予想されます。

農協の運営では、小麦の収量減の影響などで、事業計画より若干下回りそうです。役職員一同、計画に沿うように努力したいと思います。

監事会としては、監査業務を通して経営全般の強化に取り組んでいきたいと考えております。規制改革会議WGによる農協改革の提言では中央会監査に言及しております。今後そ

の推移に注目していきたいと思います。組合員各位におかれましては引き続き、ご協力をよろしくお願い致します。

本年が天候に恵まれ、豊穰の出来秋を迎えることが出来ますよう心から祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



新年のご挨拶

札内農業協同組合 青年部部长

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、私達青年部活動に対しまして、組合員の皆様をはじめ、職員関係者機関の皆様には、ご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございました。

昨年の農産物生育状況を振り返りますと、春の播種期の長雨と夏の異常な暑さ、更に収穫時期にも大雨が続き農産物の生育・品質・収穫に大きな影響を与えた1年となりました。

青年部活動では、農協施設周辺の環境整備、幕別町3農協青年部・商工会青年部と共に行った異業種交流者の集い、視察研修、食育事業等行いました。環境整備では、朝から悪天候の中、大勢の青年部員に参加していただき、コンバイン格納庫周辺の草刈りをしました。異業種交流では、猿別周辺と西和周辺のゴミ拾い活動を行いました。4人一組のチームでゴミの量を競い合い、楽しみながら地域貢献する事が出来ました。中には絨毯等持ち運べないような大きなゴミもあり、不法投棄の現状を目の当たりにしました。視察研修では、札幌ホクレン青果とヤンマーアグリソリューションセンターに行き、最新の農業機械について学べた研修となりました。食育事業では、札内南小学校と札内北小学校の2校を対象に行いました。南小学校では長芋についての授業を行い、実際に畑へ行って青空授業・収穫体験・機械の説明など行いました。北小学校では牛の餌やりや牛舎の見学を行いました。短時間ながらも充実した食育事業を行なえたことに我々青年部も達成感を得ることが出来ました。これからは青年部として何が出来るのか部員全員で話し合い、青年部の役割の大切さを考え、より地域に根差した事業を行っていきたいと考えています。

そんな中、TPP交渉参加以降、青年部としても「安全・安心」な食料を支える責任ある立場から、農業を支える担い手としてTPP交渉に断固反対してきました。青年部として食や農業の大切さを多くの方々に伝えていく事が重要だと感じています。また、様々な活動を通じて地域社会に目を向けていきたいと考えています。

最後に、本年も変わらぬご支援とご指導をお願い申し上げますと共に、部員各位、そして組合員の皆様の今年1年のご健康とご多幸を祈念して年頭のあいさつとさせていただきます。



新年のご挨拶

札内農業協同組合 女性部部长

女性部員、ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平成 26 年度もたくさんの事業計画に基づき、部員の皆様のご協力により進めることができました。改めて感謝申し上げます。

さて、昨年の女性部事業を振り返ってみますと、6 月に行われた下部組織合同交流会では、各団体混合チームでパークゴルフを楽しみ、親睦を深めました。7 月に行われた管外視察研修では、札幌・小樽・千歳方面を巡り、白い恋人パークやキリンビール千歳工場、ニッカウヰスキー北海道工場を見学しました。高品質な製品と高度な技術に終始驚きの連続でした。8 月に行われた 1 日バス研修では、旭川で酒造り資料館やクラフト館を見学し、美瑛の青い池や富良野のトリックアート美術館を巡りました。今年度の女性部事業も大変勉強になることが多い研修となり、また、日頃の疲れを十分に癒すことができました。

一方、日本の農業情勢としては T P P 交渉参加 12 ヶ国の首脳会合が 11 月に中国北京で開かれましたが、大筋合意には至らず、交渉は越年すると発表されました。それと同時に米農務省の「T P P 試算」も報じられ、T P P 合意で参加国全体の農産物輸出額は増えるが、その大半が日本向け輸出であり、ほぼ日本農業の 1 人負けという内容でありました。また消費税増税も行われ、家庭では大きな影響を受けている事と思いますが、消費税率 10% 引き上げも 1 年半先送りとなり、私達の暮らしに不安が続きます。原発による農作物の風評被害も未だ消える事は無く、生産者に多大なる影響を与えています。これら問題に対して、私達主婦も日々明るい家庭生活が営まれる様、精進しなければならないと考えています。

最後に、今後ともご指導ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様が健康で明るく過ごせる 1 年であることを願い、新年のご挨拶とさせていただきます。

青年部 幕別町立学校食育推進事業



昨年度から幕別町教育委員会の主催で実施されている食育推進事業が当農協青年部の協力により行われました。今年度は10月27日に札内南小学校3年生107名が農場で、11月27日に札内北小学校の3年生42名が牧場で体験学習をしました。

南小学校の生徒は長芋の収穫、農業についての青空授業、青年部員と一緒にトラクターの試乗を行いました。試乗では「すごく揺れたけど、面白かった。」とみんな喜んでいました。長芋掘りでは大きな長芋を探して、スコップ片手に無我夢中で作業に没頭する姿がみられました。青空授業では「いつも何時から仕事をしているのですか?」「雨の日は何をしていますか?」といった生徒からの質問に青年部員が答える場面もあり、充実した授業となりました。

北小学校の生徒は牛舎の見学や牛の餌やり体験を行いました。餌やり体験では初めのう

ちは警戒して干し草を食べてくれなかった牛でしたが、徐々に生徒の手から食べるようになり、大きな歓声が沸きました。また、搾乳機の仕組みを説明する場面では、生徒達から率先して質問が飛び交う等、皆熱心な姿勢がうかがえました。

青年部員は充実感と達成感を得ることが出来たと振り返り、2校の食育事業を大成功で終えることが出来ました。

畜産専門委員会主催 オリオン株式会社千歳工場 管外視察研修

10月29日～30日にかけて、札幌農協青年部・畜産専門委員会の主催で、管外視察研修が行われました。参加者11名で、オリオン機械株式会社へ最新の搾乳機や給餌機のシステムを学びに行ってきました。

オリオン機械株式会社は環境マネジメントシステムの効果的運用により、環境への負荷を低減させ「環境に調和した製品開発」を推進している会社で、環境管理物質の削減を図る等、積極的に環境保全に取り組んでいます。農機の分野では搾乳ユニット自動搬送装置「キャリロボ」が世界的にも有名な製品のひとつとしてあります。



初日の午後から一行が向かった千歳工場「GEAオリオントレーニングセンター」では搾乳ロボットや移動型搾乳機、自動給餌機、バルククーラーが展示されており、実際に操作体験を行うことができます。参加者は実際に体験したり、説明を聞いたり、IT技術が採用された最新機械の現状を熱心に学んでいました。「新しい技術が導入し続けられる搾乳機器には驚いている。」と皆さん、今後の技術進歩に期待を抱いていました。

翌日は午前中に自由時間を取り、札幌市内を散策する等、畜産生産者間の交流を深め、有意義な視察研修となりました。

第39回 JA十勝青年部大会

11月21日、日航ノースランドにてJA十勝青年部大会が開催されました。当農協からは9名の部員が参加し、『ONE～思い・仲間・十勝～』という大会テーマのもと、他の単組との交流や意見交換を行いました。

農業やJA、青年部に関して希望・意見・提言を発表する『JA青年の主張発表大会』では当農協からも部員が参加しました。「自分の考える農家に必要だと思うこと」を表題に、農業経営者として独立し、農家としての誇りを持ち、何でも出来るよう努めていくと農業に対する決意を発表しました。

また、講演会、分科会、1分間CMコンテスト等の日程の中、最後に懇親会が行われ、単組対抗のチームレスリング大会では当農協の部員が見事準優勝を手にしました。

他の単組の方々と情報交換を行うなど、有意義な大会となりました。



料理サークル ～ソーセージ作り～



女性部の料理サークルによる11月例会が11月26日にふるさと味覚工房にて行われました。今回は北海道産の豚肉を使用し、自家製ソーセージを作りました。

『肉』の食感を楽しむ事にこだわりを持ち、肉の風味が落ちないように機械は使わず、包丁で丁寧に粗めのミンチにしていきました。腸に詰める難しい作業も手際よくこなし、市販のものに劣らぬ見栄えのソーセージが完成しました。

後日家で家族にご馳走したところお褒めの言葉を頂いと、皆さん喜んでいました。

女性部友の会 料理講習会



女性部友の会の料理講習会が 11 月 27 日に幕別町百年記念ホールで行われました。メニューは「カルボナーラ風みそ風味のクリームパスタ」「ナガイモのチーズ風味フライ」「モッツァレラチーズと野菜のサラダ」「ベーコンチーズの焼き春巻き」「カボチャのチーズケーキ」の計 5 品でした。

美味しく出来たことは勿論のこと、見た目も美しく完成した料理に皆さん大満足の様子でした。「チーズケーキは簡単に作れるので、家で作ってご馳走できるね。」と話していました。

役員研修 ～中国・四国方面～

11 月 25 日～28 日、中四国方面で役員研修が行われました。当組合出荷市場となっている徳島青果株式会社、岩国広印青果株式会社を訪問し、青果物流通についての協議会が開催されました。

<徳島青果株式会社>

徳島青果株式会社は、創立昭和 19 年、徳島県の青果物の流通を担ってきております。昨年の野菜取扱金額 126 億円、取引金額は他の市場と同様、市場外流通の増加に伴いなかなか右肩下がりの減少となっております。徳島県は農業産地県でもあり、特に春人参、鳴門金時、生しいたけの産地で知られております。夏場（7～9 月）の野菜の供給が地元ではできないことから、その時期は北海道などの冷涼地からの入荷が主となっております。当組合からは大根、ごぼう、長ネギ、インゲンなどが出荷されており、特に大根は品質について評価が高く、仲卸から評価を得ているとのこと。今後、大根はもちろん、ごぼう、長ネギ、

インゲン等の夏場（7～9月）出荷を強く要望されました。なお近年、関西での長ネギ（白ネギ）の消費者が増えてきているとのことです。

本年の青果物流通については3月以降全体の出荷量は前年をやや下回る中、価格はやや前年を上回る状況で推移しておりました。8・9月は白菜、キャベツ、レタスなどは高値となりました。10月



に入り、本年台風の影響も少なく、青果物の入荷が潤沢となり、夏秋物と秋冬物との出荷が重なったことから、入荷量が平年を上回り、8・9月の高値疲れもあり相場が大きく下落しました。現在も価格の低迷が続いている状況であります。特別入荷量が多い訳ではなく、消費者スタイルで中食（惣菜、弁当など）、外食が増えるなか、家庭での料理（内食）が減ってきていることが、消費減少の一因とも考えられております。

本年産の馬鈴薯販売状況について、9～2月までは、全国的に北海道産馬鈴薯の出荷が主流となりますが、当組合の主力品種である、メークイン、男爵について、全道的に作付は減少しているものの、作柄が良好であることから、道外市場出荷予定数量は前年比107%となっております。北海道産馬鈴薯の出荷が本格的になった9月上旬から価格が急激に下落し、現在も低迷しており、価格は平年の80%にとどまっております。出荷も今後潤沢に進む見込みであることから、販売価格について厳しい状況が続くと思われませんが、気温が低下すると消費が拡大することも期待できることから、消費拡大、有利販売に努力をしなければなりません。

<岩国広印青果株式会社>

山口県岩国市地方卸売市場内に所在しており、当地はレンコンの産地として有名で、訪問した際、市場周辺には多くのレンコン畑があり、収穫の最盛期とのことで、小型のバックホーでレンコンを収穫する様子が見られました。



当組合からは長芋、大根、ごぼう、長ネギなどが出荷されております。長芋について、25年産の販売が好調に推移終了

しましたが、10月から26年北海道産新長芋（十勝産）が関西方面を中心に出荷されており、アクによる変色の懸念等により、長芋相場が下落致しました。26年産長芋の全道の作付面積は前年同様ではあるものの、作柄が良好であることから、書品化予定数量が前年比108%となっております。11月に入って26年産長芋の出荷が本格的になりましたが、価格

は25年産に比べ弱含みの展開となっており、気温低下によりさらに需要低下することも懸念されております。暑くなると消費が伸びることから、長期的な計画出荷が必要となりますが、岩国地区の大手スーパーでは、3L、4Lのカット売りが定番で、当組合の長芋売場を確保して頂いていることから、継続的な出荷を要望されました。

各市場とも青果物の消費、価格低迷に苦慮していましたが、消費者・市場の国産青果物に対する信頼・要望は強く。特に国産青果物は安全・安心であり、さらに北海道産については、おいしいという好印象があります。

札内産青果物の生産を進める上で、安全・安心を最優先とし、消費者・市場・実需者に信頼される産地となることが重要であり、そのためには、組合員の方々の、農薬の適正使用による生産履歴記帳運動、残留農薬検査の取組などの地道な努力が基本であることを強く感じました。